

エルニーニョ現象が発生する可能性が高まっています

エルニーニョ現象が夏頃に発生する可能性が高まっています。
エルニーニョ現象発生時において、冬季の日本付近では、気温が高くなりやすい傾向があります。

令和7年秋頃から続いていたラニーニャ現象に近い状態は解消し、現在は、エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態と見られます。最新の予測では、エルニーニョ現象が夏頃に発生する可能性が高まっています。

エルニーニョ現象が発生・発達した場合は、次第にその影響が日本の天候に現れてくる可能性があります。令和8年夏の天候については、このエルニーニョ現象が発生する可能性も含めて大気・海洋の状態を予測し、日本付近は高温になる可能性が高いと予報しており、その見通しに変更はありません。

また、エルニーニョ現象発生時の冬季は、日本の気温は高くなりやすい傾向があります。

詳細は、別紙の参考リンクからエルニーニョ監視速報等をご覧ください。日本の天候の見通しについては、最新の季節予報を参照ください。

エルニーニョ監視指数の確率予測
(予測期間:2026年2月~2026年8月)

年	月	平均期間	各月の確率
2026年	2月	2025年12月~2026年4月	100
	3月	2026年1月~2026年5月	100
	4月	2026年2月~2026年6月	20 (高い) 80 (平常)
	5月	2026年3月~2026年7月	60 (高い) 40 (平常)
	6月	2026年4月~2026年8月	70 (高い) 30 (平常)
	7月	2026年5月~2026年9月	70 (高い) 30 (平常)
	8月	2026年6月~2026年10月	70 (高い) 30 (平常)

気象庁の定義では、監視指数の5か月移動平均値が高(低)い状態で6か月以上持続した場合をエルニーニョ(ラニーニャ)現象の発生としています。

問合せ先：大気海洋部 気候情報課 異常気象情報センター 経田
電話 03-6758-3900 (内線 4546)

気象庁では、日本を含め世界中の異常な天候の要因となり得るエルニーニョ現象やラニーニャ現象など熱帯域の海洋変動を監視するとともに、それらの実況と見通しに関する情報を「エルニーニョ監視速報」として毎月1回(10日頃)発表しています。

(参考リンク)

- ・最新のエルニーニョ監視速報

https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html



- ・エルニーニョ/ラニーニャ現象に関する知識(現象発生時の天候の統計的な特徴等)

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/index.html>



- ・最新の季節予報(1か月予報、3か月予報、暖・寒候期予報)

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=season>

